

5 学 則

第1章 総 則

(目的)

第1条 本学は教育基本法および学校教育法に従い、キリスト教精神に基づく三育教育の原則にたち、高尚なクリスチャン品性、強健な体力および高度の知的能力を涵養し、指導的な社会人を育成すると共に、セブンスデー・アドベンチスト教会の奉仕者を養成することを目的とする。

(名称)

第2条 本学は三育学院短期大学と称する。

第2章 学科・修業年限および定員

(設置学科)

第3条 本学に英語コミュニケーション学科および看護学科を置く。

(修業年限および在学年限)

第4条 各学科の修業年限は下記の通りとする。ただし、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。

| | |
|---------------|----|
| 英語コミュニケーション学科 | 2年 |
| 看護学科 | 3年 |

(定員)

第5条 本学の入学定員および収容定員は下記の通りとする。

| 学 科 名 | 入学定員 | 収容定員 |
|---------------|------|------|
| 英語コミュニケーション学科 | 40 | 80 |
| 看護学科 | 60 | 180 |
| 合 計 | 100 | 260 |

第3章 授業科目

(授業科目の区分)

第6条 本学の授業科目の区分は、下記の通りとする。

| | |
|---------------|--------|
| 英語コミュニケーション学科 | 看護学科 |
| 教養科目 | 教養教育 |
| 専門科目 | 専門基礎教育 |
| 教職科目 | 専門教育 |

(授業科目および単位数)

第7条 本学の授業科目および単位数は、別表第1および第2の通りとする。

第4章 履修方法等

(単位の取得)

第8条 本学の学生は、下記の通り単位を取得しなければならない。

| | | |
|---------------|-----------------|--------|
| 英語コミュニケーション学科 | | |
| 教養科目 | 必修を含み5以上の学習区分より | 20単位以上 |
| 専門科目 | | 36単位以上 |
| | 合計 | 64単位以上 |

看護学科

教養教育

| | |
|--------|----------|
| 必修科目から | 12 単位以上 |
| 選択科目から | 8 単位以上 |
| 専門基礎教育 | 21 単位以上 |
| 専門教育 | 59 単位以上 |
| 合計 | 100 単位以上 |

(単位の計算方法)

第9条 各授業科目の単位数は下記の基準によって計算する。

- 1 講義は15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める科目については30時間とする。
- 2 演習は30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める科目については15時間とする。
- 3 実験、実習および実技は45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定めるものについては30時間とする。

(単位の授与)

第10条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には単位を与える。

第11条 本学は教育上有益と認めるときは、学生が他の専門学校、短期大学または大学において修得した単位を本学における授業科目の履修とみなし（転学等の場合を除き）英語コミュニケーション学科については15単位、看護学科については23単位を超えない範囲で単位を与えることがある。その細則は別に定める。

- 2) 前項の規定は学生が他の短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修の場合にも準用する。この場合において修得したものとみなすことのできる単位数は、前項の単位数と合わせて英語コミュニケーション学科については15単位、看護学科については23単位を超えないものとする。
- 3) 第1項の規定は、学生が外国の短期大学または大学に留学する場合にも準用する。この場合において修得したものとみなすことのできる単位数は、1項および2項による単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(単位互換)

第12条 本学が教育上有益と認めるときは、提携または協定を結んだ他の短期大学または大学と単位互換をすることができる。その細則は別に定める。

- 2) 前項の場合、本学において修得したものとみなすことのできる単位数は、第11条第1項の規定に基くものとする。

(学習の評価)

第13条 試験等の評価は下記の通りとする。

| | |
|----|----------|
| 優 | 100点～85点 |
| 良 | 84点～70点 |
| 可 | 69点～60点 |
| 不可 | 59点以下 |

(追試験)

第14条 事故等により試験を受けられなかった場合、所定の手続きを経て追試験を受けることができる。その細則は別に定める。

第5章 公開講座

(公開講座)

第15条 本学の開講する講座の学習を希望する者並びに地域の社会人に、広く学習の機会を提供し、各分野の知識・技能の向上と生涯学習に寄与するために、公開講座を開設することができる。

2) 公開講座の種類、開設の時期および期間等細則は、別に定める。

第6章 宗教教育

(宗教教育)

第16条 本学の教育方針に基づき、学生は定められた宗教行事に出席・参加するものとする。その細則は別に定める。

第7章 労作教育

(労作教育)

第17条 本学はその教育方針に従い、労作教育を行う。その細則は別に定める。

第8章 生活教育

(学寮)

第18条 本学の教育方針に基づき、全学生は学寮に入ることを本則とする。その細則は別に定める。

第9章 入学・留学・休学・復学・退学・除籍

(入学の時期)

第19条 入学の時期は学年または学期の初めとする。

(入学資格)

第20条 本学に入学できる者は下記の各号の一つに該当し、かつ入学選考に合格した者とする。

- 1 高等学校を卒業した者
- 2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- 3 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 4 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 5 文部科学大臣の指定した者
- 6 大学入学資格検定試験に合格した者

(入学願書)

第21条 本学への入学志願者は入学検定料を添えて所定の書式による入学願書、出身学校長の調査書等を提出しなければならない。

(入学および転入学)

第22条 前条の入学および他の短期大学からの転入学は、教授会の決議を経て学長がこれを許可する。その細則は別に定める。

(入学手続)

第23条 入学を許可された者は所定の必要書類を提出し、かつ期日までに入学時諸納付金を納付しなければならない。

2) 前項の手続きを怠った場合、合格を取り消すものとする。

(保証人)

第24条 保証人は独立の生計を営み、その任に耐え得る者でなければならない。

(留 学)

第25条 本学に在籍する学生が外国の短期大学又は大学において、本学が教育上有益と認める1年以内の修学をする場合、これを「留学」という。その細則は別に定める。

(休学)

第26条 病気等のため1学期以上修学を中止しようとする者は休学を願い出ることができる。休学は教授会の決議を経て学長がこれを許可する。

- 2) 休学期間は最高2年までとする。
- 3) 休学期間は第4条の在学年限に算入しない。

(復学)

第27条 復学は教授会の決議を経て、学長がこれを許可する。

(退学)

第28条 病気等のため退学しようとする者は、それを願い出ることができる。退学は教授会の決議を経て学長がこれを許可する。

(除籍)

第29条 下記の各号の一つに該当する者は、教授会の決議を経て学長が除籍する。

- 1 第4条に定める在学年限を超えた者
- 2 第26条に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
- 3 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- 4 長期間にわたり行方不明の者
- 5 所定の手続きを経ずに学業を中止した者

第10章 卒業等

(卒業及び学位)

第30条 英語コミュニケーション学科にあつては2年以上、看護学科にあつては3年以上在学し、第8条に定める単位を取得した者については、教授会の決議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2) 学長は、卒業を認定した者に対して、短期大学士の学位を授与する。
- 3) 学位規定は別に定める。

(資格の取得)

第31条 教育職員免許状を得ようとする者は、所定の卒業条件を充足し、かつ教育職員免許法および同法施行規則に定める科目を履修し、単位を取得しなければならない。

- 2) 本学において取得できる教育職員免許状は下記の通りとする。

| 学 科 | 取得できる教育職員免許状の種類 |
|---------------|-----------------|
| 英語コミュニケーション学科 | 中学校教諭二種免許状（英語） |

第11章 科目等履修生

(科目等履修生)

第32条 科目等履修生の受講は、教授会の決議を経て学長がこれを許可する。その細則は別に定める。

第12章 外国人学生

(外国人学生)

第33条 外国人学生の入学・休学・退学・復学の許可は、第9章の規定に準じて行う。外国人学生の身

分等については別に定める。

第13章 専攻科

(専攻科)

第34条 本学で専攻科をおく。

2) 専攻科の名称および学生定員は、次のとおりとする。

専攻科地域看護学専攻 入学定員 25名

収容定員 25名

3) 専攻科の修業年限は1年とし、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。

(入学資格)

第35条 専攻科に入学することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

1 短期大学看護学科卒業者

2 その他本学において前号と同等以上の学力があると認められた者

(教育課程)

第36条 専攻科の授業科目および単位数は、別記のとおりとする。

(修了)

第37条 専攻科に1年在学し、所定の授業科目を履修し単位を習得した者については、教授会の議を経て、学長が修了を認定する。

2) 学長は、修了を認定した者に対して、修了証書を授与する。

(資格の取得)

第38条 専攻科において所定の単位を取得した者は、次の資格を取得することができる。

専攻科地域看護学専攻 保健師国家試験受験資格

(準用規定)

第39条 専攻科については、この章に定めるもののほか、第12条から第14条まで、第16条から第18条まで、第19条および第21条から24条まで、第26条から第29条までの定めによるところによる。

第14章 学納金

(入学金等の納付)

第41条 入学金等は期日までに納付しなければならない。

(授業料等の納付)

第41条 授業料等は期日までに納付しなければならない。

(実験実習費等の納付)

第42条 実験・実習等に必要経費は、その都度これを納付しなければならない。

(納付の方法)

第43条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費等の納付方法は別に定める。

(学納金の返還)

第44条 既納の学納金は事情のいかんにかかわらず、これを返還しない。

(授業料等)

第45条 授業料、入学金等は下記の通りとする。

授業料(年額) 650,000円

施設設備費(年額) 310,000円

実験実習費(年額)

看護学科・専攻科 120,000円

教育充実費(年額) 160,000円

入学金 250,000円

入学検定料

30,000円

第15章 奨学金

(奨学金)

第46条 優秀な学生に対し奨学金制度を適用する。その細則は別に定める。

第16章 職員組織

(職員組織)

第47条 本学に学長、教育職員、事務職員および一般職員を置く。教育職員には、教授、准教授、講師、助教、助手等を置く。

2) 本学に名誉教授を置く。

(学長)

第48条 本学を統轄し、本学を代表するため学長を置く。

第17章 運営委員会及び教授会等

(運営委員会)

第49条 本学の管理運営に関する重要な事項を審議するため、運営委員会を置く。

(教授会)

第50条 本学に教授会を置く。学長は教授会を召集し議長となる。

(教授会の構成)

第51条 教授会は学長および教育職員をもって構成する。

(教授会の職能)

第52条 教授会は下記の事項を審議する。

- 1 教育およびその研究に関する事項
- 2 教育課程に関する事項
- 3 学生の教育指導に関する事項
- 4 学生の試験、入退学、卒業等に関する事項
- 5 教授、准教授、助教、助手の候補選考に関する事項

(各種委員会)

第53条 教授会の下に学務委員会、図書委員会、学生委員会、宗教委員会等を置く。

第18章 図書館

(図書館)

第54条 本学に附属図書館を置く。その細則は別に定める。

第19章 学年・学期・休業

(授業期間)

第55条 授業を行う期間は年間35週を原則とする。

(学年・学期)

第56条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。学年を下記の通り2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業)

第57条 学業休業日は下記の通りとする。

- 1 日曜日
- 2 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 3 夏季休業 7月20日から9月30日まで
- 4 冬季休業 12月20日から1月10日まで
- 5 春季休業 3月10日から3月31日まで

2) 学長が必要と認めたときは臨時休業日を設け、または休業日を変更することがある。

第20章 賞罰

(表彰)

第58条 学業優秀・品行方正・精励恪勤の学生を表彰することがある。

(懲戒)

第59条 本学の規定に違反した場合、その軽重により戒告、停学、退学等の処分を行うことがある。その細則は別に定める。

2) 前項の退学処分は次のいずれかの場合に行う。

- 1 性行不良で改善の見込みがない場合
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる場合
- 3 正当な理由がなくて、出席が常でない場合
- 4 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した場合

附 則

昭和46年4月1日から平成16年4月1日までの附則は省略する。

附 則

- 1 本学則は平成17年4月1日から施行する。ただし、平成16年以前の入学生については、従前の定めによる。
- 2 この学則の第45条（授業料、施設設備費、実験実習費、維持費）については、平成17年3月31日現在在学する学生にも適用する。

附 則

- 1 本学則は平成18年4月1日から施行する。平成17年以前の入学生については、従前の定めによる。
- 2 この学則の第45条（授業料、施設設備費、実験実習費、教育充実費）については、平成18年3月31日現在在学する学生にも適用する。

附 則

- 1 本学則は平成19年4月1日から施行する。平成18年以前の入学生については、従前の定めによる。
- 2 この学則の第45条（授業料、施設設備費、実験実習費、教育充実費）については、平成19年3月31日現在在学する学生にも適用する。

附 則

- 1 本学則は平成20年4月1日から施行する。平成19年以前の入学生については、従前の定めによる。
- 2 この学則の第45条（授業料、施設設備費、実験実習費、教育充実費）については、平成20年3月31日現在在学する学生にも適用する。

英語コミュニケーション学科授業科目

| | 授業科目 | | 単位数 | | | |
|--------|--------|-----------|-------|---------|--|---|
| | 学習区分 | 科目名 | 必修 | 選択 | | |
| 教 | 人生観の確立 | 現代とキリスト教Ⅰ | 2 | | | |
| | | 現代とキリスト教Ⅱ | 2 | | | |
| | | アセンブリーⅠ | 1 | | | |
| | | アセンブリーⅡ | 1 | | | |
| | | キリスト教と人生Ⅰ | | 2 | | |
| | | キリスト教と人生Ⅱ | | 2 | | |
| | | 労作教育 | | 2 | | |
| 養 | 情報処理 | 情報科学 | | 2 | | |
| | | 情報処理論 | 2 | | | |
| | | OA演習 | 2 | | | |
| 科 | 人間の理解 | 宗教学 | | 2 | | |
| | | 文科学 | | 2 | | |
| | | 倫理学 | | 2 | | |
| | | 哲学 | | 2 | | |
| | | 心理学Ⅰ | | 2 | | |
| | | 心理学Ⅱ | | 2 | | |
| | | 教育学Ⅰ | | 2 | | |
| | | 教育学Ⅱ | | 2 | | |
| | | 目 | 自然の理解 | 自然科学概論Ⅰ | | 2 |
| | | | | 自然科学概論Ⅱ | | 2 |
| 生物学 | | | | 2 | | |
| 生活の科学Ⅰ | | | | 2 | | |
| 生活の科学Ⅱ | | | | 2 | | |
| 化学 | | | | 2 | | |
| 生理学 | | | | 2 | | |
| 環境学 | | | | 2 | | |
| 社会の理解 | 社会学Ⅰ | | 2 | | | |

*
*

| | 授業科目 | | 単位数 | |
|------------------|---------------------|-------------------|-----|----|
| | 学習区分 | 科目名 | 必修 | 選択 |
| 教 養 科 目 | 社会の理解 | 社 会 学 II | | 2 |
| | | 歴 史 学 I | | 2 |
| | | 歴 史 学 II | | 2 |
| | | 日 本 国 憲 法 | | 2 |
| | | 経 済 学 I | | 2 |
| | | 経 済 学 II | | 2 |
| | | 会 計 学 I | | 2 |
| | | 会 計 学 II | | 2 |
| | | 簿 記 I | | 2 |
| | | 簿 記 II | | 2 |
| | | 高 齢 化 社 会 の 諸 問 題 | | 2 |
| | | 社 会 福 祉 | | 2 |
| | | ボ ラ ン テ ィ ア 論 | | 2 |
| ボ ラ ン テ ィ ア 演 習 | | 1 | | |
| 時 事 問 題 | | 2 | | |
| 文化の理解 | 日 本 思 想 史 | | 2 | |
| | 日 本 文 化 史 | | 2 | |
| | 日 本 文 化 演 習 I | | 2 | |
| | 日 本 文 化 演 習 II | | 2 | |
| | 文 化 人 類 学 | | 2 | |
| | 東 ア ジ ア の 文 化 と 民 族 | | 2 | |
| | 西 洋 文 明 論 | | 2 | |
| 語学の修得 | ド イ ツ 語 I | | 2 | |
| | ド イ ツ 語 II | | 2 | |
| | フ ラ ン ス 語 I | | 2 | |
| | フ ラ ン ス 語 II | | 2 | |
| | 韓 国 語 I | | 2 | |
| | 韓 国 語 II | | 2 | |
| | 中 国 語 I | | 2 | |
| | 中 国 語 II | | 2 | |
| 表現力の養成 | 国 語 表 現 I | 2 | 2 | |
| | 国 語 表 現 II | | 2 | |
| | 日 本 語 I | | 2 | |
| | 日 本 語 II | | 2 | |
| | 文 章 表 現 法 | | 2 | |
| 芸術性の涵養 | 音 楽 I | | 2 | |
| | 音 楽 II | | 2 | |
| | 音 楽 III | | 2 | |
| | 音 楽 特 講 I | | 1 | |
| | 音 楽 特 講 II | | 1 | |

| | 授業科目 | | | 単位数 | | |
|------|------|-----|------|-----------|-----|---|
| | 学習区分 | 科目名 | | 必修 | 選択 | |
| 教養科目 | | | 論 | | 2 | |
| | 健の確立 | | 体育 | | 2 | |
| | | | の原則 | | 2 | |
| | | | 体育特講 | | 2 | |
| 専門科目 | 英 | | 学 | | 2 | |
| | 英 | 語 | 講 | 2 | | |
| | 英 | 語 | 講 | 2 | | |
| | 英 | 語 | 講 | 2 | | |
| | 英 | 語 | 講 | 2 | | |
| | 英 | 語 | 講 | | 2 | |
| | 時 | 事 | 英 | 語 | | 2 |
| | 英 | 作 | 文 | I | | 2 |
| | 英 | 作 | 文 | II | | 2 |
| | 英 | 文 | 法 | I | 2 | |
| | 英 | 文 | 法 | II | 2 | |
| | 英 | 会 | | I | 2 | |
| | 英 | 会 | | II | 2 | |
| | | | 演 | 習 | | 1 |
| | | | 演 | 習 | | 1 |
| | 英 | 会 | 演 | 習 | 2 | |
| | 英 | 会 | 演 | 習 | 2 | |
| | 英 | 会 | 演 | 習 | | 2 |
| | | | 研 | 究 | | 2 |
| | | | 研 | 究 | | 2 |
| | 英 | 語 | 表 | 現 | | 2 |
| | イン | リ | シュ | コミュニケーション | I | 2 |
| | イン | リ | シュ | コミュニケーション | II | 2 |
| | イン | リ | シュ | コミュニケーション | III | 2 |
| | イン | リ | シュ | コミュニケーション | | 4 |
| | 英 | 文 | 学 | 史 | | 2 |
| | | 文 | 学 | 史 | | 2 |
| 英 | | 文 | 学 | | 2 | |
| | | 文 | 学 | | 2 | |
| 英 | 語 | 書 | 文 | 学 | I | 2 |
| 英 | 語 | 書 | 文 | 学 | II | 2 |
| 英 | 語 | 特 | 講 | I | 2 | |
| 英 | 語 | 特 | 講 | II | 2 | |

*
*

| 授業科目 | | 単位数 | |
|------------------|-------------|-----|----|
| | | 必修 | 選択 |
| 専 門 科 目 | 実務英語 I | 2 | 2 |
| | 実務英語 II | | 2 |
| | ビジネス実務演習 I | | 2 |
| | ビジネス実務演習 II | | 2 |
| | 事情報管理論 | | 2 |
| | 情報トーク演習 I | | 2 |
| | 情報トーク演習 II | | 2 |
| | コミュニケーション論 | | 2 |
| | 国際協力論 | | 2 |
| | 文化演習 I | | 2 |
| | 文化演習 II | | 2 |
| | アイリスの歴史と文化 | | 2 |
| | アイリスの歴史と文化 | | 2 |
| | 演習 I | | 2 |
| | 演習 II | | 2 |
| | 演習 III | | 1 |
| | 演習 I | | 1 |
| | 文学 I | | 2 |
| | 文学 II | | 2 |
| | 宗教学 I | | 2 |
| 宗教学 II | 2 | | |
| 言語学 I | 2 | | |
| 言語学 II | 2 | | |
| 科学英語 I | 2 | | |
| 科学英語 II | 2 | | |
| クリスト文化 I | 2 | | |
| クリスト文化 II | 2 | | |
| クリスト学 I | 2 | | |
| クリスト学 II | 2 | | |
| クリスト史 I | 2 | | |
| クリスト史 II | 2 | | |
| 教養英語 I | 2 | | |
| 教養英語 II | 2 | | |
| 教職科目 | 教師論 | | 2 |
| | 教育原理 | | 2 |
| | 教育心理学 | | 2 |
| | 教育行文学 | | 1 |
| | 英語科教育法 | | 2 |

*
*

| | | 必修 | 選択 |
|------|---------|----|----|
| 教職科目 | 教育の研究 | | 2 |
| | 教育課程研究法 | | 2 |
| | 教育シナジー | | 2 |
| | 合演習 | | 2 |
| | 生指導 | | 2 |
| | 教育実習指導 | | 1 |
| 教育実習 | | 4 | |

* の科目から4単位必修

別表第2

看護学科授業科目

| | | 授業科目 | 単位数 | |
|-------|--------|-------------|-----|---|
| 区分 | 科目名 | 必修 | 選択 | |
| 教 | 人生観の確立 | 現代とキリスト教 I | 2 | |
| | | 現代とキリスト教 II | 2 | |
| | | アセンブリー I | 1 | |
| | | アセンブリー II | 1 | |
| | | アセンブリー III | 1 | |
| | | 労働教育 | | 2 |
| 養 | 人間の生活 | 人間と倫理 | | 2 |
| | | 心のしくみと | | 2 |
| | | 人間と社会 | | 2 |
| | | 人間と文化 | | 2 |
| | | 文楽 | | 2 |
| | | 音楽 | | 2 |
| | | 時事問題 | | 2 |
| | | 教育学 | | 2 |
| 教 | 人間と情報 | 生活と科学 | 2 | 2 |
| | | 健康と生活 | 2 | |
| | | 論理的思考 | | 2 |
| | | 情報科学 I | | 1 |
| 育 | 文化と | 情報科学 II | | 1 |
| | | 英語 I | 2 | |
| | | 英語 II | 1 | |
| | | 英語 III | | 1 |
| | | 文化演習 | | 1 |
| | | ボランティア演習 | | 1 |
| | | 日本文化演習 I | | 2 |
| | | 日本文化演習 II | | 2 |
| 日本文化史 | | 2 | | |

| | | 授業科目 | 単位数 | |
|------------|----------|------------|-----|----|
| 区分 | | 科目名 | 必修 | 選択 |
| 専門基礎教育 | 人間と健 | 成長と | 2 | |
| | | 人体のと機能 I | 2 | |
| | | 人体のと機能 II | 2 | |
| | | 健と養 I | 2 | |
| | | 健と養 II | 1 | |
| | 生と倫理 | 1 | | |
| | 環境と健 | 健康環境論 | 2 | |
| | | 病気の成り立ち I | 2 | |
| | | 病気の成り立ち II | 2 | |
| | | 病気とくすり | 2 | |
| 保健福祉システ I | | 1 | | |
| 保健福祉システ II | 2 | | | |
| 専門教育 | 看護の基本 | 看護学概論 I | 1 | |
| | | 看護学概論 II | 1 | |
| | | 人間関論 | 1 | |
| | | 健行と教育 | 1 | |
| | | 看護方法論 I | 2 | |
| | | 看護方法論 II | 2 | |
| | | 看護方法論 III | 1 | |
| | 健 保持強化 | と健 I | 1 | |
| | | と健 II | 3 | |
| | | と健 III | 2 | |
| | | 成人と健 | 1 | |
| | 健 復保護 | 生維持看護論 I | 1 | |
| | | 生維持看護論 II | 2 | |
| | | 生維持看護論 III | 2 | |
| | | 生活修正看護論 I | 3 | |
| 生活修正看護論 II | | 2 | | |
| 生活機能復看護論 | | 3 | | |
| 和ケア論 | | 2 | | |
| 在看護論 | 2 | | | |
| 看護研究の基礎 | 看護研究の基礎 | 1 | | |
| | 看護研究基礎演習 | 1 | | |
| | 臨地実習 | 基礎看護実習 I | 1 | |
| | | 基礎看護実習 II | 2 | |
| | | 看護実習 I | 2 | |
| | | 看護実習 II | 2 | |
| | | 生維持看護実習 | 3 | |

| 授業科目 | | 単位数 | |
|------|------------|-----|----|
| 区分 | 科目名 | 必修 | 選択 |
| 専門教育 | 生活機能 復看護実習 | 3 | |
| | 生活修正看護実習 | 4 | |
| | 精神看護実習 | 2 | |
| | 和ケア実習 | 2 | |
| | 在宅看護実習 | 2 | |

別表第3

専攻科授業科目

| 授業科目 | | 単位数 | | |
|--------------|------------|-------------|----|---|
| 区分 | 科目名 | 必修 | 選択 | |
| 専門教育 | 地域看護学 論 | 地域看護学概論Ⅰ | 2 | |
| | | 地域看護学概論Ⅱ | 1 | |
| | 地域看護活 論 | 地区活 論 | 2 | |
| | | 家族相 助 論 | 2 | |
| | | 健 教 育 論 | 2 | |
| | | 保 健 指 導 | 1 | |
| | | 成人保健指導Ⅰ | 1 | |
| | | 成人保健指導Ⅱ | | 1 |
| | | 高齢者保健指導 | 1 | |
| | | 地域精神保健指導 | 1 | |
| | | 業保健指導 | 1 | |
| | | 学校保健指導 | | 1 |
| | 保健 社会 学 | | 2 | |
| | 地域看護活 論 演習 | 2 | | |
| | 学・保健統計 | 学 | 2 | |
| | | 保 健 統 計 学 | 1 | |
| | | 保健情報管理論 | 1 | |
| | 保健福祉行 論 | 保健福祉行 論 | 2 | |
| | 国 看護 | 国 関 と 国 保 健 | | 1 |
| 国 コミュニケーション論 | | | 1 | |
| 国 看護と国 協力 | | | 1 | |
| 保健と国 協力 | | | 1 | |
| と 対 | | | 1 | |
| 教と保健 | キリスト教と保健 | 1 | | |
| 臨地実習 | 地域看護学実習Ⅰ | 2 | | |
| | 地域看護学実習Ⅱ | 1 | | |
| | 地域看護学実習Ⅲ | 1 | | |
| | 地域看護学実習 | | 2 | |